

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県央会場＞

科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの支援

- ◆ 貧困は外からは見えにくく、支援が届きにくいことを学びました。早期発見のためには、学校や放課後児童クラブなどをはじめ、子ども食堂や学習支援などの地域の様々な機関が連携することが大切です。支援を必要とする家庭に気付き、専門機関へつなげ、切れ目のない支援を行うことの重要性を実感しました。子どもたちの声や表情、行動に丁寧に目を向け、支援のサインはないか見逃さないように心掛けたいと思います。
- ◆ 子どもの貧困が「見えにくい課題」であることを再認識した。支援が必要な家庭ほど孤立しやすく、自ら声を上げにくい現実がある。だからこそ、私たち支援者が日常のかかわりを通じて早期に気付き、つながりを絶やさず支える体制作りが重要だと感じた。子どもの健やかな育ちを守ることは、個人支援にとどまらず、地域全体の未来への投資であるという視点をもち、保護者や関係機関と協力して取り組んでいきたい。
- ◆ 児童虐待について、これまでほとんど経験がないが現実には起きているだろうし、周りが気付かない虐待があるのだろう。虐待は子どもの心と身体に大きな傷を残す可能性があるので、虐待の兆候を見逃さないように日頃から子どもを観察したい。貧困については手伝える点は少ないが、生まれ育った環境によって子どもの将来が閉ざされることがないように、どの子どもにも心を配りたい。
- ◆ 本科目を通じて、貧困状態になる子どもの学力が10歳を境に急速に低下するという点に特に关心をもった。貧困が衣食住だけでなく学力にも影響を及ぼすことを知り、親だけでなく周囲の大人は子どもたちを取り囲む環境が適切であるか、常に注意を払っていくことが大切であると考えた。
- ◆ 児童虐待の種類や虐待相談対応の件数が思っていたよりも多く驚きました。虐待によって、子どもの身体、知的、心理に影響があることが分かりました。虐待が疑われるときは、児童相談所に通告しようと思います。子どもの貧困では、親の収入（特にひとり親世帯）が子どもの教育環境や就職などに関わることを学びました。子どもたちの明るい未来のために支援制度等を知り、協力していくようにしたい。